

MarketFinder@sp
Ver4.0.1 追加／改修機能のご紹介

2024/12/23



[ここに入力]

MarketFinder@SPV4.0.1 で、以下の機能の追加／改修／不具合修正を行いました。

1. パネル

- ① データ一覧の並び順を選択可能にした

2. 住所マッチングウィザード

- ② プロット属性項目の数値項目サイズ一括変更機能を追加
- ③ 項目名が重複している場合にエラーを表示
- ④ ジオコーディング結果画面の文言修正

3. Shape ファイル取り込み

- ⑤ 取り込みファイルの複数選択を可能にした

4. レイヤ

- ⑥ レイヤインポート時のメッセージを変更
- ⑦ 設定内容の読み込みで、地図表示縮尺と背景色の復元するようにした

5. 属性

- ⑧ 地図属性編集・削除機能を廃止

6. 探索

- ⑨ 探索結果の保存／読込／削除を可能にした
- ⑩ 道路種別速度設定の追加／変更／削除を可能にした

7. データ格納先

- ⑪ データ格納フォルダの変更機能を追加

なお、お使いいただいている ASP サービスの種類、オプションの有無によって、当該機能がない場合がございます。ご承知おき下さい。

1. 各種パネル

① データ一覧の並び順を選択可能にした

プロット、エリア、図形の各パネルの下部にあるデータ一覧で、データの並び順の選択を可能にしました。



(プロットパネルの例)

今までは、「名称順」固定でしたが、「登録順」の選択を可能としました。

ここで選択した並び順は各パネル別に保存されます。

なお、「名称順」の並び替えが可能なのは、現状と同じく、1グループ内の登録件数が1000件以下の場合となります。1000件より多い場合は、ボタンが無効となり、登録順で表示されます。

2. 住所マッチングウィザード

② プロット属性項目の数値項目サイズ一括変更機能を追加

住所マッチングウィザードの「取り込むプロット属性の設定」画面に、「数字項目の桁数を一律変更する」を追加しました。

取り込み元ファイルに桁数の指定がない場合、システム規定の桁数(15.6)で取り込まれますが、これでは都合が悪い場合、今までは1項目1項目の変更操作が必要でした。

これを1回で変更できるようにしました。



赤枠で囲った部分を追加しました。

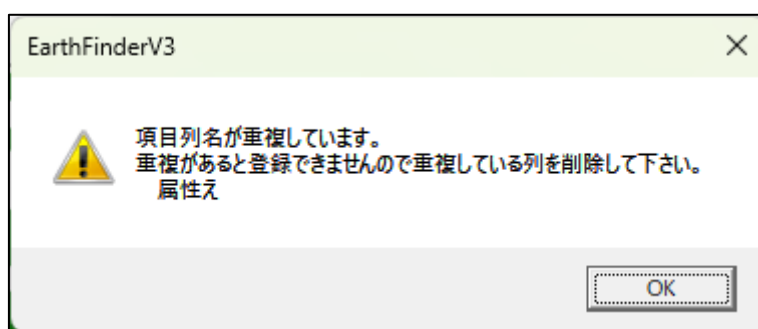
桁数を入力し「適用」を押下すると、数字項目の桁数が一律で変更されます。

適用した値は、既定の数字項目桁数として保存され、次回以降もマッチング時に適用されます。

なお、次の項目は入力ファイルではなく、アプリケーションが追加する項目ですので、桁数一括変換の対象外となります。マッチング緯度、マッチング経度、マッチング住所コード、完全一致フラグ、マッチング住所レベル。

③ 項目名が重複している場合エラーを表示

入力ファイルで項目名が重複しているときエラーメッセージを表示するようにしました。



(項目名「属性え」が複数ある場合の例)

重複項目名として表示するのは10個までで、それ以上ある場合は「他 x 件」を最下行に表示します。

なお、このメッセージ上の項目名の並び順は、入力ファイル内での並び順（出現順）ではなく、項目名の文字コード順です。

④ ジオコーディング結果画面の文言修正

「ジオコーディング」画面上には、2つの「アンマッチ」件数が表示されています。それぞれで件数が異なっている場合があり、何の件数なのかわかりにくいというご意見をいただき、画面上の文言を修正しました。



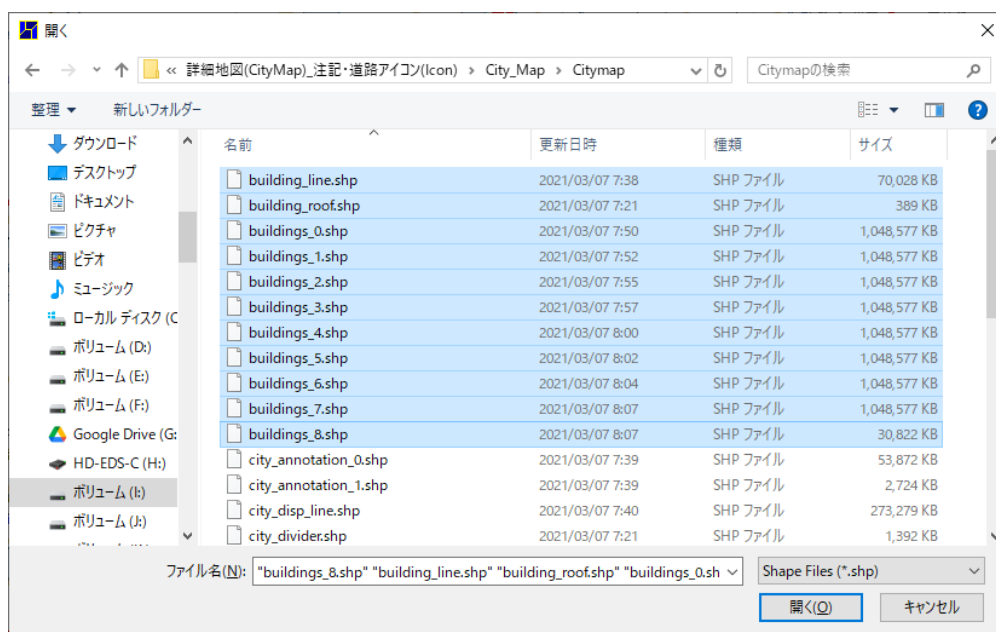
マッチング住所レベルの枠の中にあった「アンマッチ」を「緯度経度なし」に変更しました。上記画面の枠で囲った部分のそれぞれの意味は次の通りです。

- ・ 緯度経度なし（赤枠）
住所マッチングの結果として緯度経度を付与できなかったデータの件数。
- ・ アンマッチデータ（青枠：今回変更なし）
上記に加えて、ファイル内の住所文字列について、途中までしかマッチさせることができなかったデータの件数。

3. Shape ファイル取り込み

⑤ 取り込みファイルの複数選択を可能にした

「ファイル」メニュー「Shape ファイル取込み」のファイル選択ダイアログで、複数ファイルの選択を可能にしました。これにより複数の Shape ファイルを 1 回の操作で取り込むことができます。



エクスプローラと同様に、Ctrl キー／Shift キーを使って、SHP ファイルを選択して「開く」をクリックしてください。

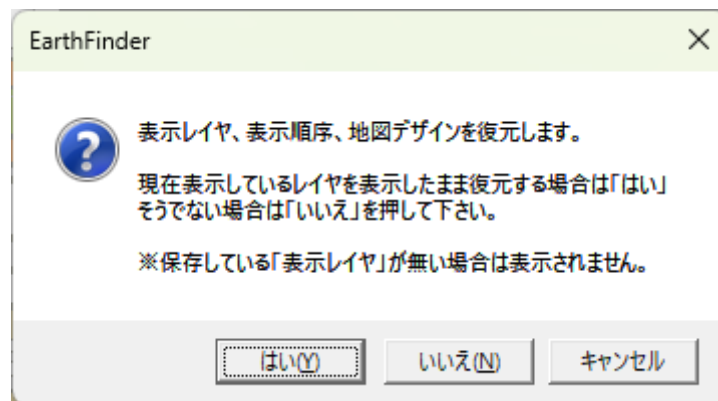
なお、複数の Shape ファイルを選択した場合、以下の制約があります。

- ・ 取り込み後のグループ名は、取り込み元 Shape ファイルのファイル名となります。
- ・ 選択した複数の Shape ファイルについて、その属性項目がすべて同一である場合は、枠線の色太さや、ハッチパターンなどの形状属性は、今までと同様、「詳細設定」画面で設定して下さい。その値を適用して取り込みを行ないます。
属性項目が異なる場合は、形状属性は既定の値を適用して取り込まれます。

4. レイヤ

⑥ レイヤインポート時のメッセージを変更

レイヤ設定画面の「インポート（取り込み）」で、設定ファイルの取り込み実行後に、次の画面が表示されます。

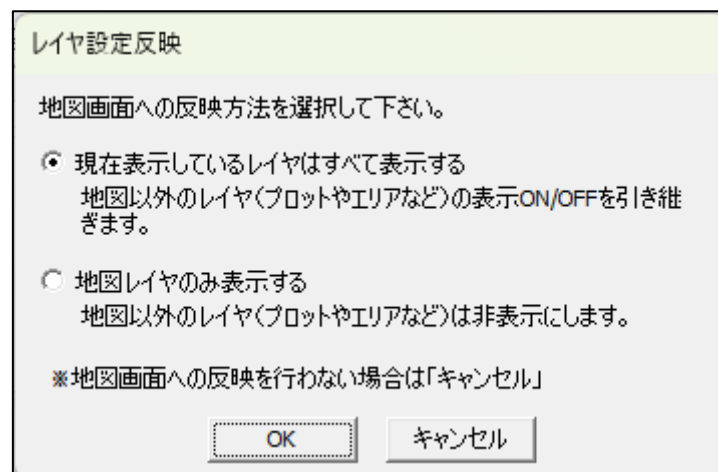


この画面は「実行」でインポートした設定を、どのように地図表示に反映するか、の画面ですが、ここでの「キャンセル」選択は、「インポート内容を現在の地図表示には反映しない」（＝インポートだけ行う）という意味のキャンセルとなります。

キャンセルの意味がわかりにくい、というご意見をいただき、今回画面を変更しました。「インポート（取り込み）」で「実行」をクリックすると、

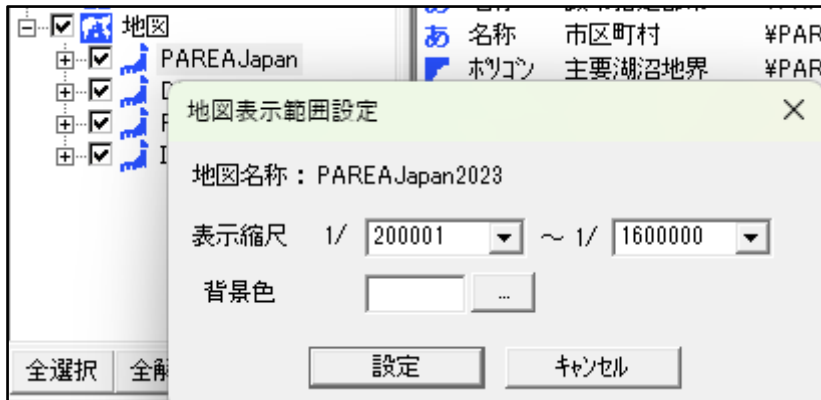


のメッセージ画面を表示し、「OK」で、



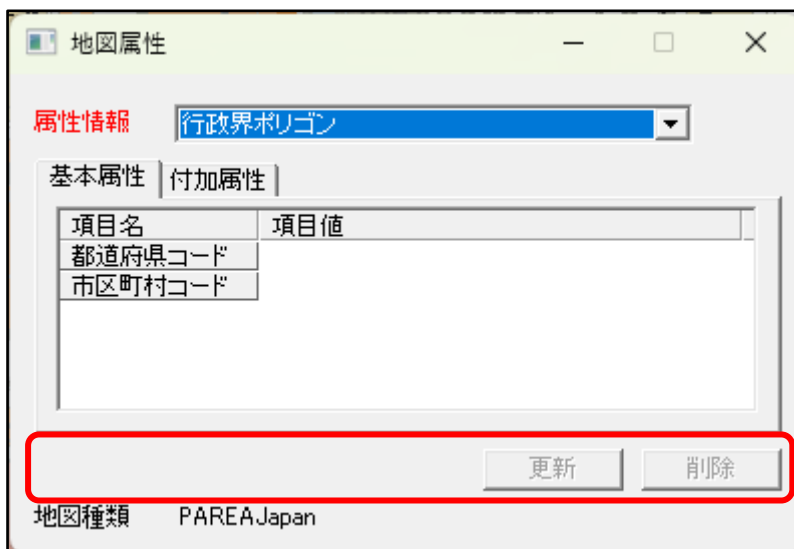
を表示するようにしました。

- ⑦ 設定内容の読み込みで、地図表示縮尺と背景色の復元するようにしたレイヤ設定画面の設定内容の読み込み（ドロップダウンリストからの選択）で、地図表示縮尺と背景色を復元するようにしました。
表示縮尺、背景色とは各地図の「プロパティ」で設定する値です。



5. 属性

- ⑧ 地図属性編集・削除機能を廃止
メニューバーの「属性」－「地図属性」で表示される「地図属性」画面の追加／編集／削除機能を廃止しました。



(赤枠で囲んだ部分がなくなりました。)

6. 探索

⑨ 探索結果の保存／読込／削除を可能にした

メニューバーの「探索」－「最短経路探索」（1対1、1対多、多対1）の画面に、「保存」「読み込み」のボタンがありますが、これはサーバのデータベース上に保存する機能であるため、「アクセス権限が不足しています」となり、機能を利用することができませんでした。

今回、サーバのデータベースではなく、PC上に保存するように変更し、すべてのユーザが「保存」「読み込み」を行えるようにしました。

⑩ 道路種別速度設定の追加／変更／削除を可能にした

同様に、メニューバーの「探索」－「道路種別速度」も、サーバ上のデータベースに登録されているので、「追加」、「変更」等のボタンがあるにも関わらず、権限がないため機能を利用することができませんでした。

PC上でデータを管理するように変更し、すべてのユーザが、追加／変更／削除を行えるようにしました。

7. データ格納先

⑪ データ格納フォルダの変更機能を追加

MarketFinder@sp は、Microsoft 社の ClickOnce という仕組みを使って、アプリケーションを PC にインストールしています。

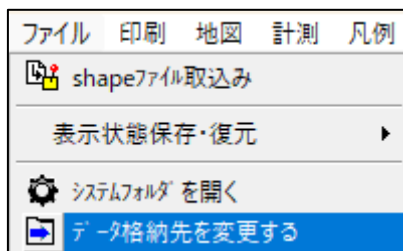
MarketFinder@sp 上で作成したプロットやエリアなどのデータは、PC 上の既定のフォルダ内に保存されます。

例)

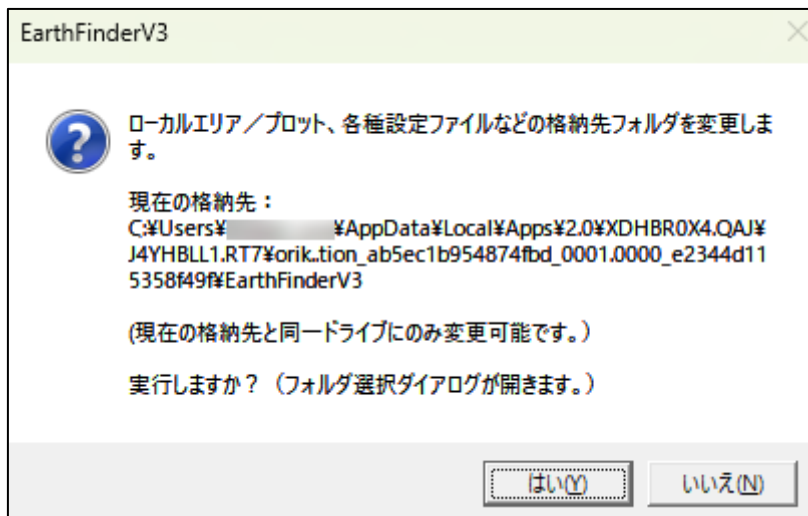
C:\Users\¥UserName¥AppData¥Local¥Apps¥2.0¥XDHBR0X4.QA¥¥J4YHBL1.RT7¥o rik..tion_ab5ec1b954874fbd_0001.0000_e2344d115358f49f

このフォルダへのアクセスは、「ファイル」メニューの「システムフォルダを開く」で行えますが、バックアップを取るとき等に不便というご要望があり、今回、フォルダの位置をユーザが指定できるようにしました。（現在のフォルダと同じドライブ、つまり、C ドライブ内のフォルダである必要はあります。）

メニューバーの「ファイル」－「データ格納先を変更する」を追加しました。

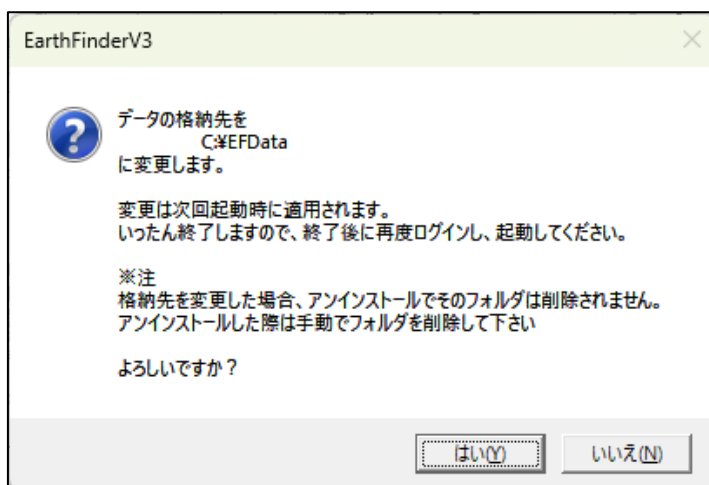


これを選択すると、次の画面が開きます。



「はい」を選択すると、フォルダ選択画面が開きますので、データ格納先のフォルダを指定して下さい。（そのフォルダ内は空である必要があります。）

「フォルダの選択」を行うと、以下の確認画面が表示されます。（データ格納先フォルダとして“C:\EFDData”を選択した場合の例。）



画面に表示されているメッセージの通り、「はい」をクリックすると、設定変更を行うために、MarketFinder@sp が自動で終了します。再度ログインして、MarketFinder@sp を起動して下さい。

※ 先の画面上のメッセージにあるように、格納先を変更した場合、アンインストールでそのフォルダは削除されません。

完全にアンインストールしたい場合は、そのフォルダを手動で削除する必要がありますということになります。

ただ、アプリケーションの様子がおかしい等でアンインストールしてみる、のケースでは、データフォルダはなくなりませんので、アンインストール後のインストール (MarketFinder@sp の起動) で、そのデータフォルダを指定することで、データを引き継いだ形でインストールすることができます。

アンインストールした後の起動では、MarketFinder@sp が立ち上がる前に、データフォルダの選択画面が表示されます。



「…」ボタンをクリックすると、「フォルダーの選択」画面が開きますので、そこで、今までのデータ格納先フォルダを選択して下さい。

なお、データ格納先フォルダとして、例えば「C:¥EFData」を指定していた場合、そのフォルダは、

C:¥EFData

└MarketFinderAsp

となっていて、実際のデータは「MarketFinderAsp」フォルダの下に格納されていますが、「フォルダーの選択」画面で指定するのは、データ格納先フォルダとして指定していた「C:¥EFData」です。

以上